

とけようがなかつた

パシエック カスパー アダム

2019年1月23日

ごめんなさい、でも...

私が救急隊からその言葉を聞いた時、もう終わ  
ったのだと知っていました。祖母は亡くな  
り、それは変える事が出来ません。

2014年9月2日

専門学校<sup>カ</sup>の2年目が始まりました。私は学  
校から15キロ離れた場所に住んでいたの  
で祖母と一緒に住むことにしました。私はそ  
れを良い考えだと思いました、なぜならこの  
年の早くに祖父が亡くなつてから、祖母は一  
人でくらししていたからです。

2014年9月3日～2019年1月21日

簡単<sup>ケ</sup>な始まりと言えはうそになりますが、祖  
母とくらす時間が増えるほど、私は彼女とし  
んみつになりました。祖母の家でくらししてい  
るうちに、私は自分の家よりも心地よいと思  
うようになりました。私は、自分の家に戻る

よりも、祖母と一緒に居たいと思いました。私は彼女と一緒に買い物に行き、毎日仕事を手伝いました。私が学校に通いながらかていさようしや学校の教師として働いていたとき、私の祖母はいつも私を支えてくれました。私が大学で勉強を始めたとき、私は毎週末、大学に行かなければなりませんでした。私が学校から帰るといつも彼女は「あなかがいないと家の中がひどく空っぽだね。」と言っていました。私自身が祖母にとって重要な存在だと知っていたからです。

2018年1月22日 早朝

午前3時半頃、私は祖母が咳をしているのを聞きました。祖母が翌日しんぞうの手術を受けるために、体調を崩さないように、ほとんども外出していながら、たので、私は心配しながら、祖母のけんこう状態を見ていました。その日の午後、母が祖母と一緒に医者のあるところへ行きました。医者は祖母の咳は手術の前のストレスが原因だと言いました。祖母がバ

ッドに行っ てから、私は彼女が眠りに落ちるのを待っていました。しかし、咳が彼女を眠らせてくれませんでした。

2019年1月23日

朝4時半頃、祖母が起きようとしているのを聞きました。彼女は私にトイレに行くのを手伝って欲しいと言いました。この時、私は何かがおかしいと思いました。祖母の咳は10メートル歩くだけで、マラソンをしているかのようになり、非常に不安定になりました。私は母に電話をし祖母に何が起きているかを話しました。私が聞いた言葉はただ一つ。「きゅうきゅうしかを呼びなさい。私も向かいます。」私は人生で初めてきゅうきゅうしかを呼びました。私は電話で最初の受付の人と短い会話をしてから、彼女に「どこか痛みはないか」と聞きました。彼女は「ないよ」と答えました。電話で受けた指示に従い、私は彼女を椅子に座らせました。祖母の普通では無い呼吸は落ち着き始めました。私は何かをしないと

いけないとわかりました。彼女に話しかけま  
したが、彼女の目のぞきこんだ時に、私は  
何が起きているか分かりませんでした。彼女の目  
は空っぽでした。しばらくちんもくがながれ  
ました。その恐ろしさは説明できません。こ  
の彼はちんもくだけがありました。7分後、  
きゅうきゅうしかがとうちやくしました。最  
初にきゅうきゅうたいが祖母を調べた後に「  
ごんねんですが、彼女は亡くなられていまお  
と仰いました。それを聞いた時、私はなみた  
とえ出ませんでした。今でも、なぜかわかり  
ません。しばらくして、母が兄と一緒にとう  
ちやくしました。さいごに母が祖母に「さよ  
うなら」と言った時に、私は子供のよう泣  
き始めました。このしかんに私の中にあっ  
たかんじようが一気にわきあがりしました。  
今は私のきおくの中にしか祖母との思い出  
(とくに最後の5年間)はありません。私は  
今日本に住んでいますが、毎日祖母を思い出  
します。私の1年を祖母と話す10秒に変える

専が出来たらと思います。